



55人の経営支援員は地域の小規模・中小企業の経営改善と持続的発展に向け、支援を行っています。経営者とのコミュニケーションをしっかりと取りながら、課題の解決とさらなる発展に向けた支援活動を展開中。

傘に広がる 手捺染の美

私たちの手捺染の技術をさらに磨き高め、独自の「鷺野クオリティ」を確立することで、従来のプロダクトアウトではなく、マーケットインのものをづくりを進めていきたいと考えています。テキスタイルコンパーターとして、傘以外の分野でも、当社の強みを生かしていきたいですね。

自社の強みを具体化

創業以来、独自に培ってきた手捺染技術を使って、京都では行われていない傘素材の染色加工を手がけてきました。安価な商品が世の中にあふれ、これまでの流通構造が大きく変化する中、手捺染ならではのきめ細やかで深みのある発色を生かし、立命館大学との産学連携でユニークな錯視柄や古友禅柄の傘を開発。単なる加工業からの脱却を目指して取り組みを進めています。

京商を訪ねたのは、昨年4月のこと。私たちの商品や技術を市場に発信していくためには何をすればいいのか相談したいと思ったのがきっかけです。単に販路開拓についてだけでなく、「知恵ビジネスプランコンテスト」への挑戦や「事業計画書」の作成など、当社の強みの掘り起こしにつながる二人三脚の支援を通じて、将来のビジョンが明確になりました。

バイヤーの意見を商品開発に生かす

今年2月に開催された「京都知恵産業フェア」では、首都圏の様々なバイヤーとの情報交換を通して、市場で今どんな商品が求められているかを知ることができました。私たちの商品は高い評価をいただいた一方、たくさんの京都の逸品が並ぶ中で、当社ならではの手捺染の価値をお客様にどう伝えていくのか、今後の課題発見につながる有意義な展示会だったと思います。

現在は、補助金制度を活用して、傘の裏側に生地を張る「二重張りの傘」を開発しています。展示会でも好評を得たもので、見た目の美しさはもちろん、表地と裏地の間に空間を作ることで、暑さを和らげる効果が生まれるなど、デザイン性と機能性を兼ね備えているのが特徴です。後継者不足で失われつつある手捺染の技術を守るため、これからも私たちがその魅力を現代のライフスタイルに合わせた形で提供していきたいと考えています。



代表の鷺野 誠一さん

企業概要



手捺染による独自のハイメッシュスクリーンを使って、オートスクリーンやインクジェットプリンターでは難しい高精細で多彩な染色加工を行っている。立命館大学との産学連携をはじめ、竹や組むもを取り扱う異業種の企業とのコラボで、世の中になかったオンリーワンの晴雨伞を開発。また、バッグやポーチ、ペンケースなどオリジナルグッズの企画・製造・販売も手がけている。

有限会社鷺野染工場

代表者／鷺野 誠一
住 所／京都市左京区一乗寺大新開町43
TEL／075-721-5611 URL／washino-print.com/